

# 未熟児および疾病新生児における母子関係

竹内 徹 (大阪府立  
母子保健総合医療センター)  
藤村 正哲 ( " )  
横尾 京子 ( " )  
糸魚川 直祐 (大阪大学文学部人間科学部)

## 第Ⅰ期

### 1. 極小未熟児の母子相互作用

(とくに父親の初期面会時の行動との比較)

研究目的：極小未熟児の母親の初期対面時の行動についてはすでに過去2年間において検討したが、今回は父親の初期対面時の行動を観察し、その後の母親と児の入院中における行動に及ぼす影響について検討する。

研究対象：当センターNICU入院のとくに極小未熟児の両親を対象とした。約100名、うち患児が極小未熟児でないものも含まれるが、一応統制群と考えて検討する。

研究方法：当センターには疾病新生児棟として急性期病棟20床(NICU的機能を持つ)および回復期・成長期病棟40床があるが、前者病棟にVTR装置2台、後者に1台設置して、経日的観察を行なった。

研究結果：昭和58年度は予報的であるが、上記100例の面会時の記録を行った。入院中の記録した面会回数は最少2回から最高41回に及んだ。父親の初回対面は、児の入院直後が多く、次回は母親単独または両親共に面会することが多かった。今回は全面会数を4分し、初期の1/4を初期段階とし、その面会時における父親の行動を、保育器からの距離(児からの距離)、その周辺での行動、視覚接触(注視行動)および直

接接触行動について分析した。これらの結果を同じく母親の初期面会時の行動とを比較した。傾向としては、父母間に少なくとも初期接触の段階では、かなりその行動面で相違が認められた。すなわち父親は一定の距離を保ち、視覚接触の時間が短く、環境の観察を行い、直接の接触行動面では、時間または内容において質的な相違がみとめられるようである。

## 期Ⅱ期および第Ⅲ期

### 2. 極小未熟児の母子相互作用

(とくに医療的・看護的介入と母子接触時の児の反応を中心として)

研究対象および方法：NICU入院中の極小未熟児について、同一患児の24時間VTR記録から、各時期(急性期・回復期・成長期)の医療従事者の介入と、両親の接触時の児の行動観察を行う。

### 3. NICU退院児の追跡研究

1においてすでに入院中行動観察の対象となった児について、外来受診時の児の行動を、父母その他家族との関連においてとらえ、児の発達にとりともなう養育者と児の行動の変化を観察する。  
研究方法：乳児外来に固定焦点のVTR装置を設置して、主として計測場面を中心に児の行動を記録し分析する。